

# Europe Trends

発表日：2020年4月10日(金)

## 英中銀が政府に資金融通

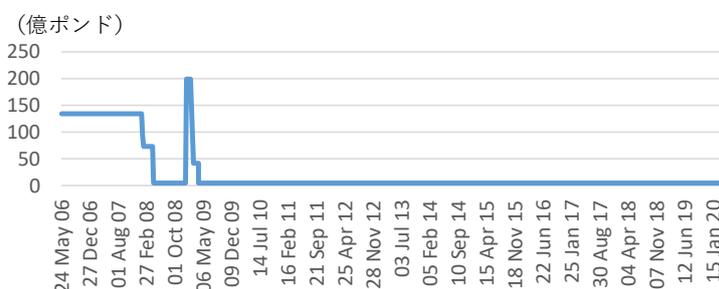
～財政ファイナンスへの第一歩？～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
 主席エコノミスト 田中 理 (TEL:03-5221-4527)

◇ 英国は中銀による政府の貸付制度の利用を拡充する。コロナ危機対応の財政拡張で国債発行が大幅に増加。今のところ国債消化に支障は出ていないが、市場環境悪化時に中銀が一時的に政府に資金を融通。同様の措置はリーマンショック時にも行われ、財政ファイナンスには相当しない。

英財務省とイングランド銀行（BOE）は8日に共同声明を発表し、中銀による政府への貸付に相当する「ウェイズ・アンド・ミーンズ・ファシリティ（W&Mファシリティ）」の利用を可能にする措置を発表した。新型コロナウイルス対応の社会距離政策による国民生活や企業活動への悪影響を軽減するため、英国政府は巨額の財政出動を約束している。これまでのところ、国債の市中消化に支障は出ていないが、市場環境が悪化した場合に中銀が一時的に政府に資金を融通する。利用増額は一時的な措置で、年末までにできる限り速やかに返済するとしている。BOEは先月19日に資産購入ファシリティ（APF）を2000億ポンド増額し、国債の買い入れを強化している。先月16日に就任したベイリー総裁は、5日付けの英フィナンシャル・タイムズ紙に寄稿し、「財政ファイナンスは中銀の独立性を損ない、物価コントロール上の信頼にダメージを及ぼす」との見解を示し、国債買い入れ強化が財政ファイナンスに近づくとの見方を否定した。国債消化を中銀資金で補う今回の措置は、返済を前提にした一時的なもので、財政ファイナンスには相当しない。W&Mファシリティは、2000年に債務管理局（DMO）が国債管理の役割を引き継ぐまで、日々の政府資金のキャッシュマネジメントを担っていた。そうした役割を終えた後も、市場の緊張が高まる局面では、キャッシュフローの平準化と市場機能の正常化を助けるため、時折利用されてきた。現在平時の残高は4億ポンドが維持されているが、リーマンショック前後には199億ポンドが利用された（図）。

（図）BOEのウェイズ・アンド・ミーンズ・ファシリティの推移



出所：英イングランド銀行資料より第一生命経済研究所が作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

